

糸賀一雄研究の新展開

『糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる』（三学出版）の特徴・論点・課題

○渡部 昭男

（大阪成蹊大学〔特別招聘教授〕）

KEY WORDS: 糸賀一雄研究、領域横断、ひとと生まれて人間となる

I. 糸賀本の出版と「索引」を用いた論点析出

渡部昭男・國本真吾・垂髪あかり編／糸賀一雄研究会著の『糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる』（糸賀本）が、2021 年 2 月に糸賀ゆかりの天津市にある三学出版から出された。本報告では、糸賀本の特徴、「ひとと生まれて人間となる」を巡る論点、課題をまとめる。論点に関しては、「索引」作成過程で用いた PDF データ検索により、複数論考にまたがって頻出するキーワード（注記・図表を除く本文中での使用頻度）に注目して析出した。

II. 特徴：領域横断等による多彩な論考 15 篇・コラム 5 篇・資料 1 篇からなる 5 部構成の多角的アプローチ

CiNii 博士論文検索において、糸賀一雄（1914-68）に関して①中山慎吾 1991「糸賀一雄論：福祉実践における福祉理念の研究」（筑波大学／博士（社会学））、②蜂谷俊隆 2012「糸賀一雄の研究：戦後知的障害児者福祉の展開と糸賀の業績・思想をめぐって」（関西学院大学／博士（人間福祉））という、社会福祉領域の 2 件がヒットする。一方、糸賀の実質的な師といわれる木村素衛（1895-1946）に関しては①大西正倫 2011「表現的生命の教育哲学：木村素衛の教育思想」（京都大学／博士（教育学））、②門前斐紀 2017『表現愛』の人間学：木村素衛教育学における身体論の系譜」（京都大学／博士（教育学））、③山田真由美 2020「京都学派の教育思想における主体概念に関する研究：高坂正顕と木村素衛の『歴史的主体』概念を手掛かりに」（慶應義塾大学／博士（教育学））という、教育学領域の 3 件である。糸賀本は中山・蜂谷・門前の 3 氏を含む多彩な論考 15 篇・コラム 5 篇・資料 1 篇から編まれており、領域・職域・世代・国境を越えての糸賀一雄研究の新展開を志向している。

そして、第 1 部：実践と思想の往還から、第 2 部：友垣・同志の苦闘から、第 3 部：実践現場の諸相から、第 4 部：国際的な視点から、第 5 部：若い世代へ、といった 5 部構成による多角的なアプローチによって、生誕百年・没後 50 年を経た今日において改めて糸賀一雄研究の意義と可能性を問わんとしている。

III. 論点①：人格、人権、尊厳、尊重、生命、ケア

文化人類学の中野リン・永岡美咲訳（香港中文大学）「糸賀一雄の思想とマーサ・C・ヌスバウムの可能力アプローチの比較」（4 部 13 章）は、1960 年代の糸賀のメッセージは、その時代だけでなく、現代にも先駆けている／ヌスバウム（1947-）の可能力アプローチと糸賀の思想は非常に似ている／社会正義の考え方は決して欧米だけのものではなく、糸賀の思想も大きく貢献する／各発達段階や教育愛の説明は、糸賀のほうが優れている／糸賀の思想は可能力アプローチを補完するものである、とこれまでの糸賀研究にはない新たな指摘を行っている。

中野論考は、憲法学の山崎将文（京都橘大学）「糸賀一雄と憲法における『人間の尊厳』」（3 部 12 章）との間で、「人格、人権、尊厳、尊重、生命」の主に 5 つのキーワードにおいて深めるべき論点を有している。また中野論考と社会福祉学・福祉社会学の中山慎吾（大分大学）「糸賀一雄と田村一二におけるケアの肯定的側面の探求」（3 部 11 章）とは、特に「ケア」のキーワードにおいて深めるべき論点を

有している（表 1）。

これら 3 論考のオンライン合評会「糸賀一雄の思想と実践」（2021.3.30）を開催し、当日資料をウェブサイト にアップしている¹⁾。

糸賀本の読み解き及び文化人類学、社会福祉学・福祉社会学、憲法学からの検討・対話のための共有財産としたい。

IV. 論点②：生産性、重症児、発達、ヨコ・横

社会福祉学の蜂谷俊

隆（美作大学）「糸賀一雄の生涯とその思想」

（1 部 2 章）、重症児教育の垂髪あかり（神戸

松蔭女子学院大学）「びわこ学園における『発達保障』思想の実践化過程」（1 部 3 章）、教育人間学の門前斐紀（金沢星稜大学）「教育における生産性」（1 部 4 章）は、「生産性、重症児、発達、ヨコ・横」の 4 つのキーワードにおいて深めるべき論点を有していよう（表 2）。

中野論考は、ヌスバウムの「人間は、生産的であることによって、他者からの尊重を勝ち取らなくてもよい。人間は、人間のニーズそれ自体の尊厳のなかに、支援に対する権利要求を有している。社会は幅広い愛着と気遣いによって結びついており、生産性に関係しているのはそのなかのほんの一部にすぎない。生産性は必要であり、またよいものでもあるけれども、社会生活の主要目的ではない」との一文を引用している（糸賀本 p.207）。門前・山崎論考は、糸賀の「肉眼では到底とらえることのできなかつたような、なまな、いきいきした、生命いっぱい、生産的な姿」という箇所（同 p.67・193）、蜂谷・國本論考は「心身障害をもつすべてのひとたちの生産的生活がそこにあるということによって、社会が開眼され、思想の変革までが生産されようとしている」という箇所（同 p.37・83）を引いている。重症児者実践の創出と蓄積を踏まえて、糸賀は「生産性」の概念そのものを変革し、拡張しようとしている。

V. 更なる課題：ひとと生まれて人間となる

遠藤六朗（元びわこ学園）は担当章「岡崎英彦『エモーショナルなもの』の展開」（2 部 8 章）と重ねつつ 2021.3.30 企画から「ある・存在・アガペ」と「なる・形成・エロス」に加えて「なっていく」ものという可能力・可能性としての把握に示唆を受けたと述べている。「ひとと生まれて人間となる」は糸賀が最後の講義（1968.9.17）で用いた重要なフレーズであり、「この子らを世の光に」「共感の世界」「愛の育ち」等とともにその意義と価値を更に深めたい²⁾。

注 1) 神戸大学学術成果リポジトリ <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008076.pdf>／<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008077.pdf>／<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008078.pdf>／<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008079.pdf>

注 2) 渡部昭男 2021「自著を語る『糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる』」『研究論叢』(27)神戸大学教育学会

(WATANABE Akio)

表 1. キーワード頻度：論点①

用語	中野リン	中山慎吾	山崎将文	他論考
人格	2	—	15	16
人権	7	—	8	1
尊厳	13	—	56	1
尊重	11	—	11	5
生命	3	1	26	72
ケア	23	16	—	6

表 2. キーワード頻度：論点②

用語	蜂谷俊隆	垂髪あかり	門前斐紀	中野リン
生産性	7	—	14	4
重症児	6	37	10	—
発達	8	34	3	11
ヨコ・横	1	2	1	—